

平成29年5月19日（金）に、ホテルポートプラザちばにて、千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議 平成29年度 総会・事例報告会を開催しました。参加者は67名で、アカデミア、バイオ関係、製造関係、分析検査関係、公的研究機関、サービス関係、自治体等、バラエティーに富んだ方々にご参加いただきました。

## 1 総会

本会議の会長である（公財）かずさDNA研究所 大石理事長、行政機関代表として千葉県商工労働部 吉田部長のあいさつに続き、事務局である千葉県商工労働部産業振興課 近藤副主幹から平成28年度事業報告、平成29年度事業計画の説明を行いました。



（かずさDNA研究所 大石理事長）



（千葉県商工労働部 吉田部長）



(千葉県商工労働部産業振興課 近藤副主幹)

## 2 事例報告会

引き続き、「ヒト人工染色体の開発と医学・薬学への応用」をテーマに、ヒト人工染色体の技術開発から、これらを用いた医療・創薬を目指した応用研究、事業化などの取り組みとして、以下の3つの課題について事例報告会を行いました。

### (1) 「ヒト・マウス人工染色体導入マウス及び細胞の構築と限らない応用の可能性」

**鳥取大学 染色体工学研究センター 特任教授 押村 光雄 氏**

開発したヒト及びマウス人工染色体 (HAC/MAC) の解説、並びに、創薬へ利用するために人工染色体へ搭載すべき遺伝子の例と、ビジネスモデルについてご紹介いただきました。



(鳥取大学 染色体工学研究センター 特任教授 押村 光雄 氏)

## (2) 「ヒト人工染色体開発の基盤とクロマチン操作技術」

かずさDNA研究所 先端研究部 細胞工学研究室 舛本 寛 室長

開発したヒト人工染色体の解説、並びに、遺伝子導入ベクターとして高い利用価値のあるヒト人工染色体開発の基盤とクロマチン操作技術について紹介しました。



(かずさDNA研究所 先端研究部 細胞工学研究室 舛本 寛 室長)

## (3) 「人工染色体導入マウスを用いた創薬支援のための薬物動態研究」

千葉大学大学院薬学研究院 薬物学研究室 准教授 小林 カオル 氏

これまでに開発した、人工染色体を用いてヒト遺伝子を実験動物に導入し薬物動態を制御する因子をヒト化した動物(ヒト化動物)の特徴の解説、並びに、創薬支援ツールとしての可能性についてご紹介いただきました。



(千葉大学大学院薬学研究院 薬物学研究室 准教授 小林 カオル 氏)

### 3 まとめ

参加者の皆様からは、“最先端の研究内容の紹介に感謝”、“新たな分野、人工染色体について知れて面白かった”等々の反響をいただき、盛況のうちに終了することができました。



(総会/事例報告会)



(事例報告会)



(情報交換会)